

HIO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸 (078) 341-5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

2001.11.1 130号



国際会館に2,000人が集う

御同朋結集の巨歩

兵庫教区御同朋結集二千人大会・同朋運動五十周年記念大会

兵庫教区御同朋結集二千人大会並びに同朋運動五十周年記念大会が「御同朋の社会をめざして」一聞こう伝えよう親鸞様のお心をテーマで、去る九月五日、

神戸国際会館に、ご来賓の不二川公勝本願寺派総務様をはじめ、教区内の僧侶・門信徒、大会参加の役員など二〇五二人が集い、盛大に開催された。

その初年度の取り組みとして、各組・各教化団体等の課題を明らかにし、組結集大会への問題提起のための大会として開催されたもの。十二時半、震災後に再建された神戸国際会館に溢れんばかりの参加者が見守る中、喚鐘が響き式典の幕を開けた。

この大会のご本尊である御絵像は、京都のご本山からお借りしたものです。その御本尊に向かって導師の表白、二千人の正信偈が声高々に続いた。

引き続き、大会会長の井上博雄教務所長が挨拶、来賓紹介の後、不二川公勝総務様、山崎忠義部落解放同盟兵庫県連副委員長様の祝辞をいただき、真宗宗歌斉唱で式典を閉じた。

第二部は「みんなでお歌う親鸞さまのお心を」と題して開会式典にも出演のコーラス一五〇人が釋氏清子さ

教区だより 11・12月	
11月3日(土) 門推の日 第一土曜仏教講座 講師・石田博信師	12月1日(土) 門推の日 第一土曜仏教講座 講師・三浦惟暁師
11月6～8日(火・水・木) 多可・氷上東組巡教	12月2・3日(日・月) 豊岡教堂報恩講
11月7日(水) 別院仏婦定例法座 講師・増井浄見師	12月9日(日) 江並教堂報恩講
11月10日(土) 仏青教区研修会	12月10日(月) 布教使育成研修会 近畿仏婦連絡協議会
11月14日(水) 伝道教化推進委員会	12月12日(水) 組長会
11月15・16日(木・金) 別院常例法座 講師・本川英暁師	12月13・14日(木・金) 教区相談員研修会
11月17・18日(土・日) 仏社幹部一泊研修会	12月15・16日(土・日) 別院常例法座 講師・谷川弘顕師
11月18日(日) 部落開放研究第23回兵庫県集會	12月22日(土) スカウト仏教章習得講習会
11月19日(月) 企画常任委員会	12月26日(水) 報恩講子どもの集い
11月23日(金) 仏婦・寺婦合同本山参拝	12月28日(金) 教務所事務終了(午前中)
11月24日(土) 別院子ども会	12月31日(月) 別院除夜会(午後五時)
11月27～29日(火・水・木) 神戸別院報恩講	

教区参与会発足

平成十三年七月に如來の教法を聞きし、信仰を深めるとともに、協力一致して兵庫教区の教化活動を援助し、もって教区の護持発展と、会員相互の親睦を計ることを目的とし、兵庫教区参与会が発足いたしました。

納骨所普通区画あとわずか

昨年十一月に増設いたしました納骨所(普通区画・小型区画)が残り基数があとわずかとなってまいりました。普通区画は使用懇志し込み希望の方はお早めに。

法語カレンダー受付中

毎年真宗教団連合から発行されております「法語カレンダー」(平成十四年版)を教務所でも取り扱っております。お念仏に生きた人たちの法味豊かな言葉とともにイラストレイターの小田貴美(おだきみ)さんの「家族」をテーマにした心温まるイラストを配した親しみやすいカレンダーとなっております。価格は一部百五十円(送料実費・三百部以上は一割引)です。申し

神戸別院仏前結婚式 ご結婚おめでとうございます
平成十三年九月二十九日 新郎 米沢 洋 さん 新婦 波留 典子 さん
平成十三年十月一日 新郎 山田 秀英 さん 新婦 堀 真理子 さん

敬吊

前田平治 (赤穂南組浄専寺 衆徒)	5月29日、84歳で往生
千葉信也 (赤穂北組明源寺 住職)	6月2日、67歳で往生
山西宏昭 (神戸湊組光明寺 住職)	6月9日、73歳で往生
上田弘樹 (岡山南組西方寺 衆徒)	6月10日、24歳で往生
玉岡美寛 (出石組 長専寺 住職)	6月15日、77歳で往生
明山美與子 (六栗組教連寺 前坊守)	6月17日、88歳で往生
6月17日、91歳で往生 筑波亮英 (姫路西組眞教寺)	
7月12日、67歳で往生 志水紫朗 (神戸中組高法寺 住職)	
8月8日、92歳で往生 廣岡喜代 (阪神南組浄徳寺 前坊守)	
8月21日、90歳で往生 源三ヨカ (神戸東組源光寺 前坊守)	
8月22日、86歳で往生 曾根義正 (高砂組 願正寺 前住職)	
8月22日、87歳で往生 檢垣 茂 (神姫組 金蓮寺 衆徒)	
多田康子 (揖龍東組正覚寺 前坊守)	
9月12日、96歳で往生	



訂正とお詫び
前号掲載の敬吊欄にて、網干組大乘寺前住職山田實温氏の掲載内容に誤記がありましたので訂正させていただきます。

組の結集へ実情報告

鍋島俊樹氏

(神戸中組組長)

神戸中組は旧神戸組の十五ヶ寺と旧兵庫組の十四ヶ寺を併せた二十九ヶ寺で組織されています。組画変更後は中央区仏教会と同じ組織になったため住職・寺族の協調性は予想以上に強くなりつつあると断言できそうです。このことは、あの「阪神・淡路大震災」の時に見事に実証されたのであります。神戸中組の教化活動を通して、今後の課題を考えると、純都市型寺院の経営では日常の法務が優先されることを考えて、時間的に組・教区共に同じ種類の研修会や講演会をできるだけ集約して、内容的にも現代社会に対応できる信心の在り方など、御同朋の社会をめざした活動の展開につながる研修会が必要でしょう。



現代社会の問題と前向きに取り組んでその根源を問いただすとともに、信仰問題とあわせて適格に対応できる人づくりをすることが必要ではないでしょうか。そのためには、住職・門信徒ともに手を携えて行動しなければならぬでしょう。もちろん、その志の根本には差別のない平等の人権が確立していかねばなりません。住職・寺族・門信徒すべてが平等の立場に立つことで互いに信頼しあい、協力する密度が高まるからであります。

住職もこれからの教化活動には他人任せの布教伝道に偏らず住職自らが真実を求めて語りかけ、また自らも真実に耳を傾けることで僧俗一体となって名実ともに全員聞法・伝道の御同朋の社会をめざしたいものです。

中西正一氏

(門徒総代会会長)

今まで様々な大会や行事ごとに、大会宣言や決意表明などをし、また、各団体の総会などでそれぞれ、目標・方針を定めて運動に取り組んでいますが、その成果はどうでありましょう。上辺だけの取り組み、名前だけの運動になっていないでしょうか。運動にはいろいろな目標を掲げて取り組んでいます。なかなか成果が上がっていません。一体どうしてなのでしょう。目標が大きすぎて漠然としており、何をどうすればよいのか分からぬ、その運動の成果を的確に捉えていないので、次の手立てが掴めないのでは。僧・俗が一体となり、腹を割って話し合おうではありませんか。各組には取り組むべき課題を見つけようではありませんか。

運動推進委員会がございませぬが、僧侶だけの組会や基推もあるとお聞きいたします。是非とも門徒の参画した組会や基推であってほしいと思ひます。門徒総代として是非、門徒の参画を要請していきたいと思ひます。僧俗が一体となって各組の取り組み目標を定めるとともに、各寺もそれぞれ問題を抱えていますので、ご住職や各教化団体と協議しながら、それぞれの組・寺・団体に適した具体目標を選定し、僧俗一体となって取り組めば、ごく些細な目標であってもその効果はすばらしいものになるでしょう。

全員聞法・伝道体制を

鍋島俊樹氏

僧俗一体でまず実行

中西正一氏

菅総務の就任祝賀会

◆21日 第23回全国保育大会が宮崎にて(22日まで)
◆22日 第11期連研履修者大会に680名が参加◆23日 臨時教区会(通算第120回)を開催◆24日 近同推寺婦研修会が津村別院にて(25日まで)／仏婦丹波ブロック研修会を水上西組正福寺にて◆25日 仏婦但馬ブロック研修会を城崎組信楽寺にて◆26日 門徒総代会一泊研修会を別院にて(27日まで)◆28日 別院子ども会◆29日 仏丹波・但馬ブロック研修会を城崎組光行寺にて◆30日 寺婦近畿ブロック打合せ会を別院にて◆31日 第38回サマースクールを城崎組照満寺にて◆8月1日 モダン寺暁天講座開催(3日まで) 講師は1日・多紀組専福寺、松島法城師「みほ仏にいだかれて」2日・網干組浄泉寺、小泉信了師「わたしはなんのためにうまれてきた」3日・六粟組妙福寺、宏林教正師「造恵のめざめ」◆2日 仏青全国大会が築地別院にて(5日まで)◆4

日 門推の日／第一土曜仏教講座、講師は龍谷大学講師、太田信隆師「人間―この不思議なもの―」◆15日 別院五箇盆会を厳修、講師は別院輪番、井上博雄師「みひかり―慈光に照らされたい日々―」◆26日 出石組組巡回◆28日 第26回全国寺族青年軟式野球大会を宇治市にて◆30日 東西保育研修会が高砂にて◆9月1日 滋賀教区栗太組長安寺が別院団参／門推の日／第一土曜仏教講座、講師は北撰組廣宣寺、門中浄光師「信心」◆2日 仏壯姫路・西播ブロック研修会を姫路中組法性寺にて／奈良教区奈良組西勝寺一味会が別院団参◆4日 備後教区比婆組勝光寺寺婦が別院団参◆5日 兵庫教区御同朋二千人大会並びに同朋運動五十周年記念大会を神戸国際会館にて開催◆6日 青僧会連統研修会を姫路サンガーデンにて、講師は向坊弘道師「42年間のベッド生活を支えたもの」◆7日 別院仏婦定例法座、講師は神崎組正善寺松上隆彰師「遠慶宿縁」◆8日 京都教区呉竹組合同研修会が別院団参◆9日 仏岡山ブロック研修会が岡山北組宝福寺にて◆10日 大阪教区石川北組寺婦が別院団参◆11日 寺婦の重誓偈練習会を別院にて◆12日 第3連区ビハラ実行委員会が奈良にて◆13日 奈良教区仏婦連盟が別院団参◆15日 別院常例法座、講師は出石組勝林寺西池哲俊師「共同心」(16日まで)◆16日 仏壮理事會・常任理事会を別院にて◆17日 安芸教区安芸北組龍仙寺が別院団参◆18日 第21回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に教区より50人が参拝◆22日 別院秋季彼岸会を厳修講師は滋賀教区神崎組金剛寺、武田智徳師「阿弥如来のおおせ」(24日まで)／別院子ども会◆26日 愛生園追悼法要を厳修◆27日 東海教区伊賀組西光寺・専称寺念仏の旅が別院団参／常備会を別院にて◆28日 第3ブロック寺婦研修会、教区研修会を別院にて◆29



教区から50人参拝

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

九月十八日、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑に僧侶・門信徒が集い「第二十一回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が営まれた。

法要に先立ち「つどい」が開催され、兵庫教区からは教区を代表して仏教婦人会の柴田克子委員長が花を供えた。献花の後、武蔵野女子大学学長の田中教照師

「追悼法要」では武野総長を先頭に全国教務所長が出動、総長導師のもと、表白・正信偈が勧められ、読経中には来賓焼香に引き続き、参拝者全員が焼香をし、戦争の犠牲者を偲んだ。読経後、総長が挨拶に立ち、「戦争犠牲者の方々の尊い命の上に、今の私たちの命が成り立っていることを思い出すとき、戦火に倒れていかれた方々の思いに我が思いを馳せ、その死を悼むことこそ、今を生きる私たちの責務であると存じます。」とあらゆる命が私と連なっている命である」と挨拶され、この法要の意義と命の大切さをお示しになり、厳肅な法要を終了した。

武内勸学寮頭が講演

◆6月1日 布教団総会・研修会を別院で◆2日 門推代表者協議会が本山で(3日まで) / 門推の日 / 第一土曜仏教講座、講師は加古川組普光寺 近藤龍樹師「念仏の声を世界に子や孫に」とは / スカウト総会が別院で / 京都教区天橋組瑞光寺仏母が別院団参◆3日 東海教区三重組西勝寺やわらぎ会が別院団参 / 滋賀教区愛知組了教寺仏母・仏母が別院参 / 京都教区下西組名声寺聖跡参拝団が別院参◆4日 連研推進委員会が別院で / 平成13年度第1回僧侶研修会を別院で、武内紹晃勸学寮頭記念講演に引き続き就任祝賀会を別院にて開催 / 滋賀教区大津組永順寺が別院参 / 作用組西宗寺聞法旅行団が別院参◆6日 龍谷大学一期会が別院参◆7日 別院仏母定例法座、講師は北摂組光明寺 伊達宣信師「すでに道あり」◆8日 阪神東組専正寺が別院参◆11日 2001年度近同推総会が本山で / 滋賀教区明性寺仏母が別院参◆13日 びばーラ施設訪問で明

石の清華苑へ◆14日 滋賀教区栗太組寺婦が別院参 / 第3連区びばーラ実行委員会が津村別院で / 御同朋結果大会実行委員会を別院で / 少年連盟第3ブロック指導者研修会が顕道会館で(15日まで) / 東北教区岩手組光林寺参拝団が別院参◆15日 歩いて知る大和会が別院参 / 別院永代経厳修、講師は播磨中組西念寺 太田唯念師「念仏申すべし」(16日は常例法座)◆17日 仏母三役会・理事會が別院で◆18日 仏母幹部一泊研修会を別院で、講師は仏母連盟講師 清岡隆文師「仏教婦人と環境問題」(19日まで)◆20日 布教団十方会総会・研修会を別院で◆21日 滋賀教区栗太組長安寺が別院参◆22日 大阪教区島下組照儀坊が別院参◆23日 別院子ども会 / 滋賀教区高島組林照寺が別院参◆24日 仏母東播ブロック研修会を播磨中組教福寺にて開催 / 龍谷大学経済学部同窓会が別院参 / 滋賀教区高島組妙正寺が別院参◆25日 門推三役会・幹事会を別院

で◆26日 別院眞役・総代・財産管理委員会を開催◆27日 寺婦研修旅行で北摂光澤寺へ(28日まで)◆29日 菅義成宗会議員総務就任祝賀会をホテルニューオオタニにて◆30日 安芸教区加茂東組順教寺門信徒研修旅行団が別院参 / 勸学寮頭所講習会を別院で開催◆7月2日 第3ブロック布教使研修会を別院にて◆4日 青僧会連統研修会を豊岡教堂にて、講師は香川徹男師「ミヤンマーの比丘生活」 / スカウト仏教章授与式を別院本堂にて◆5日 連研のための研究会を別院にて◆7日 門推の日 / 第一土曜仏教講座・別院定例法座、講師は元仏母連盟講師、辻本敬順師「仏教語の世界」◆8日 仏母阪神ブロック研修会を阪神西組妙光寺に



花菖蒲園にて

6月27・28日、教区寺婦連盟が北摂・丹波にて一泊研修会を行った。北摂組光澤寺への参拝研修、宿泊ホテルでの研修をメインとして教区寺婦連盟会員三九人が参集した。寺婦連盟の研修旅行は、平成十一年度より会員相互の抱える現状・問題への理解を深めるため、教区内各地区を対象に地区内寺院参拝と聞法研修が行われている。二十七日は光澤寺へ参拝し、同寺住職杉本昭典師より研修を受けた。同師は近年完成した同寺の説明を交えながら、イノベーションというこの理念を實踐に移すことの大切さを伝え、

北摂・丹波を訪問 寺婦一泊研修

同時に同朋運動へのより一層の理解を求めた。二日目は同師より前日の内容を受け、宗門の男女共同参画の意味を受講した。本田委員長は研修を受け、「男女共同参画は言葉や意味上のもではない。宗門の発展のため必ず推進されねばならない。そのためには、まず寺族婦人があらゆる機会に宗門・教義、また社会問題について学びを深める必要がある。」と呼びかけ、「まず、お寺に届く書類・冊子に目を通すことから始めよう」と述べた。また、北摂・丹波を観光し新たな体験や発見を楽しんだ。

仏母の若返りが課題

小林元彦氏

小林元彦氏 (仏母連盟理事長) 教区内での仏母結成寺院は七五ヶ寺の内、二七ヶ寺ありますが、充実した仏母活動を行っている寺院はどれほどあるのかと疑問を抱くことがあります。私事で大変恐縮ですが、組画変更の時には教区理事として参画してまいりました。組画変更のとき、神戸

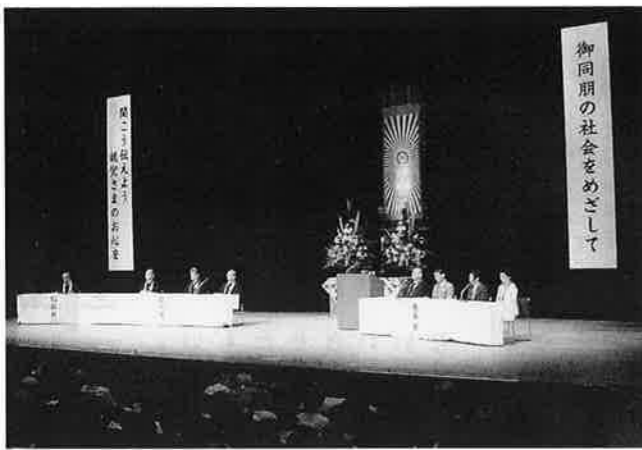
ブロックでも各組の理事がなかなか決まらず、その時だけのブロック研修をしてもらったときだけのものになってしまったように思われます。しかし、「その時だけの研修をしてもよくはない」と各理事からの意見があり、また、ブロック研修会はいつも神戸別院で行われていたように思います。はじめは神戸ブロック連絡協議会としてブロック研修会をどのように進めたらいいのか、また研修会の運営も考え、神戸四組だけでも、年間一百万の会費を負担して研修会を意義あるものにしようと考えて進めてまいりました。ブロック研修会が阪神・神戸ブロックと共に開催するので教区理事の後、ま

た日程を変えて各組理事がよく話し合い、阪神・神戸ブロック連絡協議会と改めて現在にいたっています。阪神・神戸ブロックを例として話を進めておりますが、「いつも同じ会場の神戸別院では充実した研修会にならない」との話しがあり、数年前より研修会場を阪神ブロックと神戸ブロックと交代で開催しております。各組理事が一丸となり、研修会のあり方や、反省点、そしてどうしたらもっと若い方々が参加してもらえるのだろうか、といった話しながら頭を痛めています。ただ、都市部での仏母の問題点は「昔からの会員が多く、若い方が入りにくい」という点が考えられるので、会員も高齢者が多く、仏母を続けていくことが難しくなりつつあります。若返りを図らねばと思案してありますが難しく、どのように取り組めばいいのか頭を痛めています。一人一人の想いをあわせ、今日の結果大会を意義あるものとして終えたいものです。

お念仏の喜びの輪に

柴田克子氏

南無阿彌陀仏のお念仏の中に生かされて生きています。私たちは、組画変更の熱い願いから十六年の時を越えて託されたものは何だったのでしょうか。かけがえない、出会いを大切にさせていただきながら、基幹運動の理念に基づき御同朋の社会をめざして、各組と単位の仏母活動の推進と充実をはかることを目的に、まずは三十九組の仏母三役会からなります幹部研修会を始め、加盟登録五三五ヶ寺対象の単体会会長研修会、教区内七ブロックに分かれてのブロック別研修会、そして次代を担ってくださいます若婦人の方々にご活躍いただく場を、特に若婦中央研修会を受講された方々を中心に若婦人の集い研修会を開催し、意見発表・役割分担等自主的に勤めていただいております。一方、信心の行者として御同朋の社会をめざし、行動ある聞法者となり、お念



御同朋の社会をめざして

ブロックでも各組の理事がなかなか決まらず、その時だけのブロック研修をしてもらったときだけのものになってしまったように思われます。しかし、「その時だけの研修をしてもよくはない」と各理事からの意見があり、また、ブロック研修会はいつも神戸別院で行われていたように思います。はじめは神戸ブロック連絡協議会としてブロック研修会をどのように進めたらいいのか、また研修会の運営も考え、神戸四組だけでも、年間一百万の会費を負担して研修会を意義あるものにしようと考えて進めてまいりました。ブロック研修会が阪神・神戸ブロックと共に開催するので教区理事の後、ま

仏母自身の日暮の中で、報謝の営みとしてできることから始めるには「ダーナ」の行いにおいて他にはないと思うのです。支えあう心の無財の七施のもと、聞法者としてまことの心をいただく私たちは、自他の対立を超えて共に生き、共に歩み、共に共感できる御同朋の社会を願ってやみません。親鸞聖人は「弟子一人も持たず」とお示しになり、蓮如上人様は「平座にて同座するは・」と示されてお聴聞の場を設けられましたとか。そのお取次ぎをくださいます各寺院のご住職を信頼申し上げ、おみ法の喜びをより多くの仲間にお伝えさせていこうとする思いに何卒お力添えをくださいますよう切に望



会をめざして

改革へ教区から助言

山本宣昭氏

(教区会議長)

神戸は寺院数が多く組画変更を実施する前は三つの組(神戸組・兵庫組・灘組)があったわけです。その三組の中でも旧兵庫組は六十ヶ寺ありました。実はこの兵庫組はあちらこちらに混在していたわけです。そのような状況の中でこのような現状を何とか解消していきたい、という願いから立ち上がり、教区会にも提案されてきたわけです。しかし、残念なことになかなか実現できずに立ち消えになっておりました。

昭和六十年四月に現在の三十九組の組画変更が実現

森本信行氏

(組長会長)

「御同朋の社会」の実現には大きく避けて通ることのできない事柄があります。それは先ほどから申されておりますように「差別」の問題であります。

悲しいことですが、差別ということとなるとなかなか全体の問題となつてこない。私には関係がない。私は差別などした覚えがない。また、そんなことをするつもりもない。などと言われる方はたくさんおられます。

私はこの「差別」という問題に関してもう二十数年前になりますが先生とお話をすることがあります。私が先生に「本当に差別が無くなるということがあるのでしょうか？」という問いに対してその先生は「人間社会からすべての差別を無くすことは大変難しいでしょう、しかし一番差別の少ない社会を作ることではできません」とおっしゃられ「その一番差別の少な

一人一人が念仏者に

森本氏

問題点の克服が急務

山本氏

なぜ教化団体なのか

井上氏



念仏者になっていくということとは決して二つあることではなく、同じ一つの事柄だと思っております。親鸞聖人のお心に対して「とか、念仏者のあり方」など様々な事を私たちは日頃からよく口にいたしますが、本当に私たちは親鸞聖人のお心を自らにどれほどそのことに対して傾きを持っているのか、「分かっていませう」「聞いて知っています」と言うのはこれは信心でも何でもないので、それぞれ組織をしっかりと作

されました。確かにその通りなのですが、実現されるまでにはいくつもの難問を抱えていたなかで何度も審議され、全員の力で新しい組が出来上がったということを是非忘れないでいただきたい、と思っております。

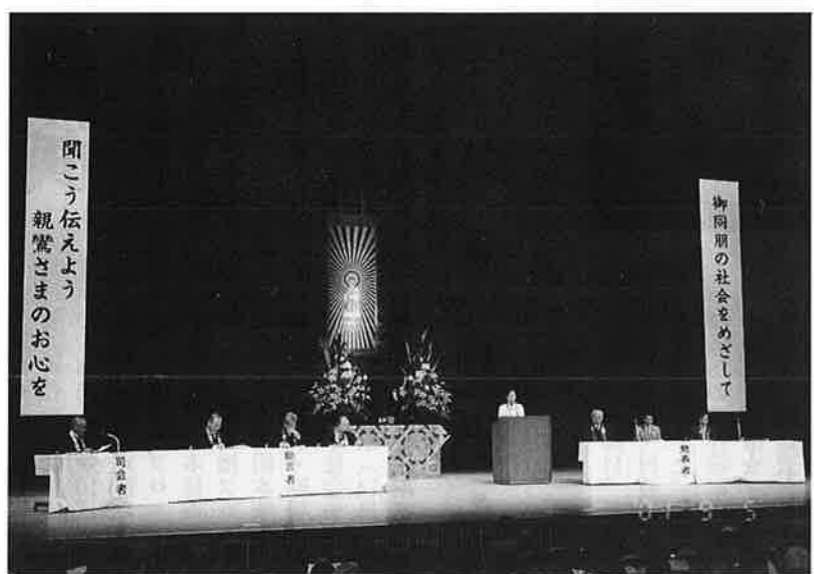
門徒総代会・仏教社年会・仏教婦人会とそれぞれお話を聞かせていただき、具体的に何をしていたのか、どのように点検してきたのか、これからはどのように進めて行くべきなのか、と実際に分かりやすく発表をしていただきました。

組画変更後の十五・六年の間には様々なことがあったことだと思っております。益々高齢化が進んでいく中で、問題点や課題とされること、これらを僧俗が一体となり進めていかなくてはならないということにお互いに気付けていただければ今日のこの大会になっていけると感じ大変ありがたいことだと思っております。

井上博雄氏

(教務所長)

現在においてこそ教化団体という存在がありますが、昔はこのようなものは無かったわけです。昔のお寺には



このような教化団体的な存在は無かったわけです。昔のお寺ではご法座が開かれ老若男女がお寺にお参りされ、そこでおみ法を聴き、また話し合いをし、また御示談というものも存在していたわけです。ところが今日と比較してまいりますと、お寺でのご法座の日数が減り、法座の数も減っていき、はたしてお寺はどうなっていくのか？本来お寺